

『都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育』

東京女子医科大学・杏林大学・帝京大学・駒澤大学



ニュースレター 平成28年度8号

新たな長期的人材育成を目指して



帝京大学
理事長・学長

冲永 佳史

本学は平成24年度より東京女子医科大学・杏林大学・駒澤大学と連携して、文部科学省の事業である「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」に選定され、「都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育」プログラムを担っております。

本事業は、がん診療・研究のための教育拠点を構築し、長期的な人材育成を目指しており、その内容はがん診療医・研究者およびコメディカル専門職の育成、チーム医療の実践教育、緩和医療、地域がん診療体制構築、対応する新たな講座の新設など、広範で多岐にわたるものです。

本学の医学研究科では、がんを診る総合医、臨床研究・臨床試験のためのグループリーダーを育成するコースを設け、さらに、緩和医療の新たな専門科目を大学院で新設し、緩和ケア医療を担う人材の育成も行っております。

また、「がんを知ろう!帝京サマースクール」では、小学生高学年を対象としたがん教育を行っており、今年で4回目の開催となりました。医療・からだへ興味を持ち、Well-being (よく生きること) や自分の健康に取り組む動機づけとなること、さらにがんに対する望ましい態度の形成に寄与することを目的とし、オープニングレクチャーをはじめとして、腹腔鏡のシミュレーターを操作する外科・顕微鏡でがん細胞を見る病理・血圧を測定する内科での実習を体験、手術室・化学療法室・放射線治療室の病院見学、クロージングレクチャーでは、一日体験したことの振り返りを行いました。

本事業は最終年度となりますが、がん診療連携拠点病院の実践および大学院教育が一体となって、本邦のがん診療の発展および人材育成で重要な一翼を担い、学んだ大学院生、受講生が現場において活躍できるよう期待しております。

医療放射線を扱うがんプロフェッショナルの育成

医療放射線を用いた技術や応用の進歩無くして現在の医療は成り立ちません。

この飛躍的な発展を遂げて来た要因には高度先進医療機器の開発だけではなく、それら进行操作するテクノロジストの存在が不可欠です。主として扱う媒体が医療放射線であるため、患者への放射線被ばくを十分に考慮しながら機器の特性や能力を最大限に導出する努力を日々勉めています。そうすることで多くの診療付加価値情報を抽出でき、適切な診療情報として患者や臨床医に提供することの出来るプロフェッショナルの育成があればこそ近代医療が成り立ちます。

この様な背景の基、駒澤大学大学院医療健康科学研究科では画像診断専門医や各診療科医の業務支援を行うことが出来る画像読影支援者、並びに放射線科治療医の業務支援を施すことのできる医学物理士や放射線治療品質管理士の認定資格取得を目指す「がんプロフェッショナル」を育成しています。また、本学の「建学の理念」でもあります「信・誠・敬・愛」より、どんな小さなのちも大切に作る人間・慈悲の心で顧愛の言語行動ができる人間形成を目指しています。

さらに、がん予防活動の一環として連携4大学が推進する小学生高学年と中学生を中心に「生活習慣と予防できる“がん”、適切な検診にて早期発見できる“がん”」をテーマとする教育活動も積極的に進めていきます。



駒澤大学大学院
医療健康科学研究科
教授

奥山 康男

平成 28 年度第 1 回 4 大学合同カンファレンス

東京女子医科大学 放射線腫瘍学 唐澤 久美子

平成 28 年度第 1 回 4 大学合同カンファレンスを、平成 28 年 7 月 16 日（土）に東京女子医科大学において開催しました。今回のテーマは、「都市型がん医療の課題と考えさせられた症例」で、大学院生自身が経験して対応が難しかった症例をプレゼンテーションし、会場からアドバイスをいただき皆で検討するという内容でした。

東京女子医科大学の新田医学部長の開催挨拶に続き、コメンテーターをお願いした、全国がんプロ協議会会長・大阪府立成人病センター総長・大阪大学大学院医学系研究科特任教授の松浦成昭先生、日本医科大学付属病院薬剤部薬剤部長の片山志郎先生をご紹介させていただき、引き続いて 4 人のがんプロ大学院生の発表が行われました。

駒澤大学・医療健康科学研究科の黒澤技師よりは、放射線治療における診療放射線技師の患者ケアに関する発表が行われチーム医療の重要性が認識されました。杏林大学・医学研究科の岡野医師より「高Ca血症・腎障害を契機に緊急入院となり、長期入院を要した1例」、帝京大学・医学研究科の深澤医師より「終末期の方針決定に苦慮した都市部在住単身患者の経験」、東京女子医科大学・看護学研究科の村田看護師より「高齢がん患者の意思決定支援—退院調整の今後の課題—」が発表され、いずれも都市型がん医療の抱える問題を浮き彫りにするような内容でした。医学的なアドバイス、患者さんご家族に対する対応などについて会場から多くの助言やコメントをいただき、院生の頭の中も整理されたようでした。

また、今後我々が良いがん医療のために取るべき行動について、コメンテーターの先生からも重要な示唆をいただき、有意義な時間を過ごすことが出来ました。最後に、がんの基礎研究をされている東京女子医科大学丸副学長の閉会挨拶で会を終えました。ご参加の皆様のご協力に感謝致します。



駒澤大学 黒澤技師



帝京大学 深澤医師



杏林大学 岡野医師



東京女子医科大学 村田看護師



文部科学省 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
「都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育」

2016 年度 第 1 回 4 大学合同カンファレンス ～ 都市型がん医療の課題と考えさせられた症例 ～

開催日時：平成 28 年 7 月 16 日（土）13：30～16：00
会 場：東京女子医科大学 外来センター 5 階 大会議室

【プログラム】

総司会：唐澤 久美子（東京女子医科大学放射線腫瘍学講座 教授・講座主任）

- 13:30-13:35 開催の挨拶 新田 孝作（東京女子医科大学 医学部長）
- 13:35-13:40 外部コメンテーター紹介
松浦 成昭（大阪大学大学院医学系研究科 特任教授、大阪府立成人病センター 総長、全国がんプロ協議会 会長）
片山 志郎（日本医科大学付属病院 薬剤部 薬剤部長）
- 13:40-15:20 がんプロ大学院生による発表と個別討論
 - 13:40-13:50 「放射線治療における診療放射線技師の患者ケア」
黒澤 知征（駒澤大学・医療健康科学研究科）
 - 13:50-14:20 「高Ca血症・腎障害を契機に緊急入院となり、長期入院を要した1例」
岡野 尚弘（杏林大学・医学研究科）
 - 14:20-14:50 「終末期の方針決定に苦慮した都市部在住単身患者の経験」
深澤 陽子（帝京大学・医学研究科）
 - 14:50-15:20 「高齢がん患者の意思決定支援—退院調整の今後の課題—」
村田 千穂（東京女子医科大学・看護学研究科）
- 15:20-15:35 総合討論
- 15:35-15:55 外部コメンテーターからの総評
- 15:55-16:00 閉会の挨拶 丸 義朗（東京女子医科大学 副学長）

小学校高学年へのがん教育 — 帝京サマースクールについて —

帝京大学医学部緩和医療学講座 有賀 悦子

2013年から市民啓発活動の一環として、小学校高学年への呼び込み型がん教育を毎年夏に1回開催してきた。

本プログラムの目標は、「よりよく生きることに触れながら、医療やからだへの興味を持って自分の健康について考え、社会参加を意識すること」とし、予防、検診に留まらない健康教育としたことに特徴がある。今年も7月30日に開催し、小学5、6年生40名の募集は開始2時間で一杯となり、43名の参加者を迎えた。

プログラムは例年同様、オープニングレクチャー30分(がんの発生、検診、予防、治療方法)、体験実習各30分(病理、外科; 腹腔鏡、内科; 心と体のつらさ)、昼食、病院見学1時間(手術室、化学療法室、放射線治療室)、クローズingleクチャー30分(Well-being、助け人になる)であった。小学生への広報は、Webよりチラシなどの紙媒体が有効で、児童の自己決定で参加しているものが75%、残りが親の勧めであった。学校配布のチラシで情報を得た後、自分で決め、親に相談したものが多く、こうしたプロセスも自律性に寄与しているのかもしれない。体験実習の評価が高く、終了時の感想では、ほぼ全員に自由記載があり、具体的にこれから取り組もうとしていることが書かれていた。

大学に來校することで医療を直接体験することができるのが呼び込み型のメリットである。その経験によりヘルスレジリエンスの獲得を目指した一般市民に対する健康教育は、小学校高学年で理解ができ、行動変容に繋がるのが感想アンケートから感じられた。





杏林大学がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 取組み

杏林大学がんプロ事務局では、本学医学部付属病院の看護部、杏林大学病院がんセンターと連携して、がん患者の方々や、そのご家族、一般市民向けに平成27年度より「がんと共にすこやかに生きる」講演会を開催しています。

本講演会は1年間で7回開催するシリーズ制になっており、各講演会の内容は様々です。がんの基礎知識から、最新のがん化学療法、緩和ケア、在宅医療、さらには社会復帰した後のがんと仕事の関わりまで幅広い内容で出来る限りわかりやすいものとなっています。

また、講師には杏林大学病院腫瘍内科の先生方やがん看護認定看護師の方、さらには外部講師といたしまして、国立がん研究センターより免疫療法の専門家や栄養士の方々をお招きし、ご講演をいただいております。

来場者数は平成27年度合計で494名の方々に参加して頂きました。

がん患者の皆様のみならず、がんという病の知識を増やそうという幅広い年齢層の方々にお越しいただいている印象です。

多摩地区のがん拠点病院として、今後も本講演会を通じ周辺地域の方々へ、「がんと共にすこやかに生きる」方法や知識を提供していきたいと考えております。



登録・問い合わせ先



東京女子医科大学

がんプロ事務局
TEL 03-3357-4889
MAIL top-g4.bm@twmu.ac.jp



帝京大学

事務部 教務課 がんプロ担当
TEL 03-3964-1211 (代表) (内線 42122)
MAIL ganpro@med.teikyo-u.ac.jp



杏林大学
がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン事務局
TEL 0422-47-5512 (内線 3211)
MAIL ganpro@ks.kyorin-u.ac.jp



駒澤大学
教務部研究推進課研究推進係
TEL 03-3418-9125
MAIL ken-suishin@komazawa-u.ac.jp



本事業の最新情報はホームページに掲載、「TOP-G4」で検索



<http://top-g4.jp>